

明日の「大阪ぶどう」 をはぐくむ！



収穫量は全国第8位！
 [2021年度]

大阪はかつて全国一のぶどう栽培面積を誇り、**現在も全国有数の産地**です。
「デラウェア」を中心に多くの品種が栽培されています。

環農水研では、前身の「大阪府立農事試験場」（大正8年設立）の時代からぶどう研究に取り組んでいます。

研究所育成品種「**ポンタ**」
 芳醇な香りと濃厚な甘み特徴
 （育成者・三輪主任研究員
 とともに）



吉村大阪府知事も視察（令和元年8月）



農事試験場（大正時代）の
 ぶどうの栽培試験のようす

生食ぶどうの研究では、**大阪オリジナルのぶどう品種の開発**に取り組んでいます。平成30年に品種登録した「**ポンタ**」は、生産者への苗木の普及が開始され、令和5年には少量ですが、消費者の食卓に上る予定です。



ワイナリー向け分析勉強会
 右：大阪ワイナリー協会
 高井会長
 左：三浦研究員



第1回GI大阪審査会
 と認定ワイン（令和3年7月）

ぶどう産地の大阪では100年以上のワイン醸造の歴史があり、**府内ワイナリーでは大阪ぶどうの特色を活かしたワインが製造**されています。

令和3年6月に、国税庁長官により地理的表示「大阪」（GI「大阪」）が指定されました。

産経、日経、朝日、読売新聞に掲載
 （令和3-4年）



ぶどう・ワインラボ

環農水研では、**ぶどうとワインの研究拠点「ぶどう・ワインラボ」**を活用して、大阪ぶどう・ワインの振興に努めています。

新商品開発のための醸造試験やワイナリーの**ワイン品質向上のための成分分析の支援**などを行っています。

また、**大阪のぶどう畑の特徴が大阪ワインの風味に与える影響（テロワール）**の解明のための調査研究も行っていきます。



醸造室での
 ワインの仕込み



ぶどう畑の
 土壌調査

気候変動に負けない、新しいワイン作り

高品質な赤ワインには、しっかりと赤い色がついていることが重要です。地球温暖化によって、ぶどうの着色不良が生じてワインの色が悪くなるのが心配されています。

環農水研では、府内ワイナリーで育成された**果肉まで着色する品種「大阪R N-1」**の特性を調査し、ワイン用として活用できることを確認しました。

そこで、農林水産省に申請を行い、**新品種として登録**されました。「大阪R N-1」は、大阪のような温暖な気候に強いだけでなく、**機能性成分として注目されているポリフェノール（アントシアニン）が従来の赤ワイン用ぶどうの数倍**含まれていることもわかってきました。



中央：大阪R N-1
左：メルロー 右：ピノ・ノワール



「大阪R N-1」は赤ワインの期待の星です。ワインを早くお手元に届けられるよう頑張ります！
(葡萄グループ 末廣研究員)

果肉まで着色する品種
「大阪R N-1」
(おおさか アールエヌワン)



日本経済新聞などに掲載
(令和4年5月)

(果実外観) (断面)



「大阪R N-1」



参考「ピノ・ノワール」



ワインの香りと味をコントロールする

大阪特産のデラウェアを使ったワインは大阪ワインの特徴の1つで、府内の全ワイナリーでデラウェアワインを製造しています。

環農水研では、デラウェアの収穫の**タイミングが果実やワインの品質に与える影響を調査**しています。

ワイナリーが作りたいワインの香りや味に応じ、適切な時期に収穫した果実を利用できるよう、**醸造用デラウェア栽培のための指針づくりに取り組んでいます。**
(葡萄グループ 下野研究員)



果実熟度の異なる時期のデラウェアから醸造したワイン



ぶどう生育予測でスマートな農業を支援

デラウェアの「種なし」化などに必要な薬剤処理は、満開の約14日前と約10日後の2回、正確に行うことが必要です。**時期がずれると、「種あり」になることがあります。満開日を正確に予測できると、処理作業の準備、予定を計画的・効率的に行うことができます。**

環農水研では、**気温予報値を活用して満開日を予測する手法を開発**しました。この新手法により、従来法よりも予測精度が向上し、満開1か月前から**±1日の高い精度で予測**できるようになりました。

デラウェアの花
薬剤処理
(花房を植物ホルモンの一種であるジベレリン液に浸します)



露地デラウェアのジベレリン処理適期情報ページ

生産者の方に、**正確な予想をできるだけ早期にお知らせ**できるよう頑張っています。
(葡萄グループ 上森研究員)

